

2025年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年2月13日

上場会社名 株式会社かんなん丸 上場取引所 東
 コード番号 7585 URL http://www.kannanmaru.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野々村 孝志
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 宮永 一彦 TEL 048-815-6699
 半期報告書提出予定日 2025年2月13日 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年6月期第2四半期（中間期）の業績（2024年7月1日～2024年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期中間期	948	16.3	△57	-	△56	-	△58	-
2024年6月期中間期	815	36.1	△96	-	△96	-	△103	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期中間期	△15.36	-
2024年6月期中間期	△27.28	-

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年6月期中間期	1,685	589	34.9
2024年6月期	1,782	649	36.5

(参考) 自己資本 2025年6月期中間期 589百万円 2024年6月期 649百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年6月期	-	0.00			
2025年6月期（予想）			-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2025年6月期の配当予想につきましては、現時点では未定としております。

3. 2025年6月期の業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,888	14.4	△122	-	△119	-	△129	-	△34.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2025年6月期中間期	4,351,308株	2024年6月期	4,351,308株
2025年6月期中間期	539,832株	2024年6月期	539,812株
2025年6月期中間期	3,811,493株	2024年6月期中間期	3,811,515株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因等により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P2「1. 当中間決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(中間損益計算書に関する注記)	7
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間における外食業界は、経済活動の正常化に伴い、個人消費の回復と旺盛なインバウンド需要により、売上高は前年を上回ってきました。一方で、世界的な物価上昇により、原材料費の高騰、光熱費の上昇、人手不足による人材確保及び最低賃金の上昇に起因する人件費増加など、依然として経営環境は厳しい状況で推移しております。

こうした状況下、当社は以下の施策を実施してまいりました。まず第一に、事業ポートフォリオの組み替えを加速させております。地元密着で幅広いお客様層にご来店いただいている自社業態「じんべえ太郎」を中心に、地域によって業績回復の遅れている店舗の業態転換を積極的に進めてまいりました。また、店舗に係る工事費用が徐々に増大している傾向を考慮し、一時的なキャッシュ・フローの悪化をまねく恐れがあるものの、業績回復につなげるためには、早期に業態転換を進めるべく検討しております。

第二に、店舗運営の最適化を図っております。業態転換に伴う店舗改装とメニュー改定を実施し、見通しの良い店内設計によるオペレーションの効率化と独自メニューによるF Lコストコントロールにより、運営店舗のコスト構造見直しにより物価上昇への機動的対応を継続いたします。

その結果、店舗戦略の展開に関しては、2024年7月に「日本海庄や三郷中央店」を「じんべえ太郎」、「VANS AN」の2店舗に、2024年12月に「庄や北鴻巣店」を「じんべえ太郎」に業態転換いたしました。これにより、「じんべえ太郎」業態は計10店舗になりました。当該ブランドに関し、業態転換後の業績は概ね好調に推移しております。また、2025年3月予定にて東浦和の「庄や」を「じんべえ太郎」へ、カラオケ「歌うんだ村」を自社運営である「カラオケkobanちゃん」にリニューアルオープンする予定です。加えて、既存店においては、適切な人員配置と徹底した運営管理を続けてまいります。当社は、これらの施策を通じて業績回復を図り、厳しい経営環境下においても持続可能な成長を目指してまいります。

当中間会計期間末の店舗数は、大衆割烹「庄や」14店舗、「日本海庄や」2店舗、カラオケルーム「歌うんだ村」1店舗、大衆すし酒場「じんべえ太郎」10店舗、Italian Kitchen「VANS AN」4店舗、女性専用A Iパーソナルジム「FURDI」2店舗の合計33店舗となっております。

上記の結果、当中間会計期間の業績は売上高948,615千円、売上総利益は657,505千円、販売費及び一般管理費については714,653千円となり、営業損失は57,147千円となりました。

経常損失につきましては56,034千円、税引前中間純損失56,406千円となり、中間純損失58,559千円となりました。

セグメントの業績については、次のとおりであります。

	料理飲食事業	その他
売上高 (前年同期比)	927,323千円 (13.8%増)	21,291千円 (1567.5%増)
セグメント利益又は損失(△) (前年同期比)	38,461千円 (524.2%増)	△8,572千円 (-)

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当中間会計期間末における流動資産は712,785千円となり、前事業年度末に比べて84,767千円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が99,786千円減少したことによるものであります。

また、固定資産は972,705千円となり、前事業年度末に比べて12,320千円の減少となりました。これは主に、建物等の有形固定資産が3,260千円減少したことによるものであります。

当中間会計期間末における流動負債は369,804千円となり、前事業年度末に比べて17,981千円の減少となりました。これは主に、未払金46,356千円減少によるものであります。

また、固定負債は726,644千円となり、前事業年度末に比べて18,274千円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少18,188千円によるものであります。

当中間会計期間末における純資産は589,041千円となり、前事業年度末に比べて60,831千円の減少となりました。これは、中間純損失の計上の結果、利益剰余金が58,559千円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、467,629千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において営業活動の結果、使用した資金は52,975千円となりました。

これは主に、税引前中間純損失56,406千円、減価償却費32,847千円、仕入債務の増加額19,299千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において投資活動の結果、使用した資金は28,472千円となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出29,587千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において財務活動の結果、使用した資金は18,339千円となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出18,186千円によるものであります。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等

当中間会計期間において、飲食店舗へのお客様の人流も回復し、当社業績は前年同期比で増収増益の結果となっておりますが、原価、人件費、光熱費と様々な経費の上昇があり、既存店の収益力向上への取り組みと業態転換による店舗の収益力の改善は着実に進んでおりますが、地域によりまだ苦戦する店舗もあります。また、売上増加に見合う利益増には至らず、計画通りの黒字化は未達であり、かかる状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が継続しております。このような状況を解消するために、当社は、事業の収益改善と資金繰りの安定化を目的として下記を実施しております。

まず事業収益改善のため、店舗損益構造の改革を実施しております。具体的には、当社独自の業態である大衆すし酒場「じんべえ太郎」において、お客様の声・競合店の情報を取り入れ、メニュー提案やドリンクの提供方法等に工夫を加え、店舗スタッフ一丸となって、常にお客様に楽しんでいただける店舗運営を図り、ブラッシュアップし続けることで、収益の確保に努めます。そしてそのエッセンスを既存業態にも水平展開していくことで、店舗の活性化を図り、収益力の向上に努めております。

次に資金繰りの安定化のため、業態転換の投資で改善された成果を維持し、店舗への資源配分を最適化し、また当座貸越の活用を視野に入れながら、運転資金の維持確保と一定額のキャッシュ水準の積み増しと維持に努めております。

当社は、当中間会計期間末現在で、現預金残高617,752千円、純資産残高589,041千円を有しており、現時点では安定的な財政状態を維持しております。そのため、これを基盤として上記対応策を進めていくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月14日に公表いたしました中間会計期間及び通期の業績予想を修正いたしました。詳しくは2025年2月7日に公表しました「2025年6月期第2四半期(中間期)業績予想の修正及び通期業績予想の修正並びに営業外収益の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年6月30日)	当中間会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	717,539	617,752
売掛金	41,761	54,783
原材料	12,917	16,490
前払費用	19,425	19,781
その他	5,911	3,976
流動資産合計	797,553	712,785
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	429,734	427,250
土地	213,034	213,034
その他(純額)	56,738	55,960
有形固定資産合計	699,506	696,246
無形固定資産	12,955	12,955
投資その他の資産		
差入保証金	197,574	193,014
その他	81,134	76,570
貸倒引当金	△6,145	△6,081
投資その他の資産合計	272,563	263,503
固定資産合計	985,025	972,705
資産合計	1,782,578	1,685,490
負債の部		
流動負債		
買掛金	42,669	61,968
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	43,426	43,428
未払法人税等	4,890	2,445
賞与引当金	1,100	1,300
その他	195,701	160,663
流動負債合計	387,786	369,804
固定負債		
長期借入金	644,545	626,357
資産除去債務	88,050	88,630
その他	12,323	11,656
固定負債合計	744,918	726,644
負債合計	1,132,705	1,096,449
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	313,600	313,600
利益剰余金	898,544	839,984
自己株式	△622,159	△622,168
株主資本合計	639,984	581,416
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9,888	7,625
評価・換算差額等合計	9,888	7,625
純資産合計	649,873	589,041
負債純資産合計	1,782,578	1,685,490

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
売上高	815,822	948,615
売上原価	254,147	291,110
売上総利益	561,675	657,505
販売費及び一般管理費	658,417	714,653
営業損失(△)	△96,741	△57,147
営業外収益		
受取利息	6	54
協力金収入	-	1,400
補助金収入	-	980
貸倒引当金戻入額	13	64
その他	901	934
営業外収益合計	921	3,432
営業外費用		
支払利息	645	2,271
その他	27	46
営業外費用合計	672	2,318
経常損失(△)	△96,491	△56,034
特別損失		
店舗閉鎖損失	3,331	372
特別損失合計	3,331	372
税引前中間純損失(△)	△99,823	△56,406
法人税、住民税及び事業税	2,466	2,478
法人税等調整額	1,681	△325
法人税等合計	4,148	2,153
中間純損失(△)	△103,971	△58,559

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失(△)	△99,823	△56,406
減価償却費	27,339	32,847
店舗閉鎖損失	3,331	372
長期前払費用償却額	1,241	2,473
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△13	△64
受取利息及び受取配当金	△140	△232
支払利息	645	2,271
売上債権の増減額(△は増加)	△9,138	△13,021
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,675	△3,572
仕入債務の増減額(△は減少)	15,901	19,299
その他	△24,154	△30,042
小計	△86,486	△46,076
利息及び配当金の受取額	140	232
利息の支払額	△645	△2,241
法人税等の支払額	△4,916	△4,890
営業活動によるキャッシュ・フロー	△91,907	△52,975
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△128,330	△29,587
資産除去債務の履行による支出	△13,015	△2,944
投資有価証券の売却による収入	52	8
貸付けによる支出	△549	△900
貸付金の回収による収入	65	430
差入保証金の回収による収入	1,940	4,560
その他	△2,168	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△142,005	△28,472
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	100,000
短期借入金の返済による支出	△100,000	△100,000
長期借入金の返済による支出	△18,330	△18,186
配当金の支払額	△34	△122
自己株式の取得による支出	△30	△8
その他	△2,088	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,483	△18,339
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△254,396	△99,788
現金及び現金同等物の期首残高	708,361	567,417
現金及び現金同等物の中間期末残高	453,964	467,629

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(中間損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
社員給与手当	268,196千円	306,961千円

(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
現金及び預金	554,086千円	617,752千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△100,122	△150,123
現金及び現金同等物	453,964	467,629

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I. 前中間会計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間財務諸表 計上額 (注) 3
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	814,546	814,546	1,276	815,822	—	815,822
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	814,546	814,546	1,276	815,822	—	815,822
セグメント利益又は 損失(△)	6,161	6,161	△11,207	△5,046	△91,695	△96,741

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「FURDI」事業を含んでおりません。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△91,695千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間財務諸表の営業損失と調整を行っております。

II. 当中間会計期間(自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間財務諸表 計上額 (注) 3
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	927,323	927,323	21,291	948,615	—	948,615
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	927,323	927,323	21,291	948,615	—	948,615
セグメント利益又は 損失(△)	38,461	38,461	△8,572	29,889	△87,037	△57,147

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「FURDI」事業を含んでおりません。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△87,037千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間財務諸表の営業損失と調整を行っております。